



『こどもの遊びと参画の保障が拓く地域の未来』

3.16 第1回公開学習会を道議会にて開催

一昨年は「森のようちえん・自然保育」について、昨年は「自然学校開業研究」をテーマに、道議会での公開学習会を開催してきました。

引き続き、これまでの2つのテーマは、上川管内などはじめ、地域ごとにより進化・深化をさせつつ、今年の重点は、この2つのテーマにもつながる「こどもの遊び環境の保障とこどもの参画の推進」とし、第1回目の道議会を会場にしての公開学習会を開催しました。



昨年末にインドネシアに訪問し、「こども会」組織が、地域の問題解決の主人公として、自治体の政策づくりに参画する事例をみてきましたので、今回は、ユニセフなどと連携して、こどもが参画することもにやさしいまちづくりなどのとりくみを、国際的にも進めている千葉大学園芸学部 木下勇教授をお招きして、「こども参画推進の意義と世界的な動向」などについて、「全国のこども会活動の現状」について、NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘 理事長平山乾悦さん、「現場からの実践報告」として、子ども会修了生の中尾美奈さんにお話をいただきました。

グローバルな理念と、現場の実践を結びあわせること。そして、政策のスタートが、実践者、行政、議員の水平なコミュニケーションで、誰でもアクセス可能な公開の場からとなることを常に意識して、こうした情報共有の場を道議会の現場で重ねて行きます。



北海道は今年命名150年を迎えました。 ～百年記念塔など百年記念施設の再生にも取り組んでいます。

3.19



環境生活常任委員会で、有識者のみなさんの意見を聞いたりしながら、百年記念塔の再生に向けて、これまでの維持管理のあり方なども含めて、質問しました。

これまでも、札幌市内でも歴史的建造物が簡単に取り壊されてきました。そうした建造物や、屋外彫刻、モニュメントのこれからの関わる議論だと思います。

単純なコスト論だけではなく、北海道博物館、開拓の村、百年記念塔の再生に努力していきます。

◎環境生活常任委員会 質疑・質問

- 一 北海道百年記念塔の再生に向けた取組について
 - (一) 百年記念施設設立の目的についての認識と150年を契機とした再生検討の目的
 - (二) 百年記念塔のデザインの意図と施工管理の状況について
 - 1 錆片落下の具体的な状況について
 - 2 錆片落下の原因について
 - (三) 今後の進むべき方向について
 - 1 モニュメントとしての価値の認識について
 - 2 道民財産という観点から
 - 3 北海道の文化的資産のこれからのあり方を象徴する百年記念塔及び百年記念施設の議論の位置づけについて

アイヌ民族博物館の最後の展示を視察してきました。～民族共生象徴空間は2020年4月24日にオープンです。

3.29

3月31日をもって閉館した「アイヌ民族博物館」に行ってきました。最盛期は、入場者数が80万人を超え、今は、20万人程度。中央の大きな政策の流れで国立アイヌ民族博物館として再生し、100万人の来場者数をめざすとのこと。

私としては、野本館長はじめ、アイヌ民族の皆さんがこの地で育ててきた文化伝承のための人材育成などがより充実したものになるよう応援していきます。



◎ひろまる通信ご希望の方は

FAX番号またはご住所をお知らせ下さい。

TEL:011-860-8666

FAX:011-860-8667



f フェイスブックページも更新中です!

▼広田まゆみ

<https://www.facebook.com/mayumi.hirota.94>

▼北海道議会議員 広田まゆみ政務事務所

<https://www.facebook.com/hiromarujimusyo>

LINE@はじめました!

ID検索で @krs3857u 友だち追加をお願いします